

令和8年産

きらみずき通信 第1号

令和8年6月5日
湖東農業農村振興事務所農産普及課
(TEL 0749-27-2228)
JA東びわこ営農振興課
(TEL 0749-28-7851)



移植後1か月頃が中干し開始の目安！ 6月下旬の葉色低下に注意しましょう！

1. 5月末時点の生育状況

- ・ 移植は5月10日～20日を中心に行われ、初期生育は概ね順調です。
- ・ 浅水管理で、分けつを促しましょう。

※ 余剰苗は早急に処分してください！

補植用の置き苗は葉いもちの伝染源になります。
「きらみずき」は殺菌剤が使用できず、いもち病に弱いため、特に注意が必要です！



6月1日時点の生育
(5月17日移植、
茎数7.9本/株)

2. 中干し・溝切りの実施

○中干し開始の目安

50株植：茎数20本/株、60株植：茎数17本/株

- ・ 中干しは、無効分けつを抑制し、過繁茂を防ぐ他、収穫直前まで入水可能な田面の硬さを確保するのに有効です。適期に実施しましょう。
- ・ 中干しの効果を高め、中干し後の水管理を容易に行うため、溝切りをしましょう。
- ・ 溝切り数日前に水を切り、田面を少し固めてから再度浅水にして溝を切ると崩れにくい溝を形成できます。



中干し開始時期の生育（60株/坪）

3. 追肥の施用

- 地力が低いほ場では、追肥が必要です！
- 地力が中庸なほ場でも、6月下旬頃に葉色が淡くなり始めたら追肥を施用しましょう！

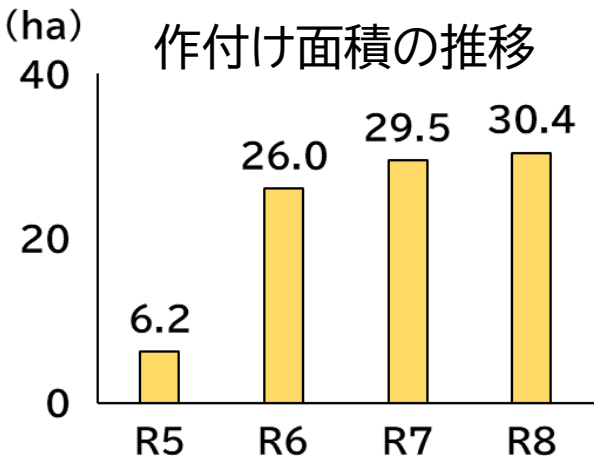
- ・「きらみずき」は初期生育が旺盛になりやすい傾向があり、穂肥を施用するまでに葉色が低下することがあります。
- ・葉色が極端に低下すると、回復が遅れて減収につながることから、下記の目安に従い必要な場合は追肥を施用しましょう。
- ・有機質肥料は肥効が発現するまで一定の期間を要するので、施用が遅れないように注意しましょう。

《追肥の目安》

追肥判断	地力が低いほ場で作付している場合 ⇒ 6月下旬に施用する
	6月下旬に葉色が低下してきた場合 ⇒ 葉色板で3.8以下（SPAD値で35以下）になるまでに施用する
施用量	有機質肥料で窒素成分1～1.5kg/10a (例) 有機アグレット727： 15～20kg/10a

令和8年産「きらみずき」の栽培状況(湖東地域)

JA営農経済センター	栽培者数(戸)	栽培面積(ha)
稲枝	8	12.5
愛荘	3	3.7
東部	17	14.2
計	28	30.4



- ✓ 新規「きらみずき」栽培者 3戸
- ✓ 化学肥料・化学合成農薬不使用栽培(オーガニック栽培含む) 約100a
- ✓ 滋賀県全域の栽培面積; 296ha